

震災後の取組みが 学童保育の充実に いかされることを願って

池川尚美

宮城県学童保育緊急支援プロジェクト

私たちは、宮城県内の学童保育支援のために、震災二か月後に宮城県学童保育緊急支援プロジェクトを立ち上げ、全国学童保育連絡協議会に寄せられた全国の皆さまからの義援金や協力をもとに支援活動をづけています（この一年半の活動は八〇ページ参照）。活動の中心は支援者支援―子どもや保護者を継続的に支える指導員さんへの支援―で、とくに指導員さんとの懇談と研修を大切にしています。それは、日々の実践を大切にすることこそが、子どもや保護者への最大の支援であることと確信したからです。以下、私たちが学んできたこと*、支援のなかで大切にできたことを紹介します。

被災者の心の支援・必要とされる配慮とは

安全や食料などの基本的ニーズの確保のつぎに必要なのは、心の支援です。不安を放置すると、不満、不信、絶望へと

ずに子どもの話を聴く・年齢に応じた遊ぶやおしゃべりをする。日課がこなせるようにする。簡単なルールをつくり守るようにする。保護者を支える、などもあげられています。これらは、学童保育の指導員が仕事として大切にしてください（そのものではないでしょうか。子ども自身にも対処する力があり、危機的状况のなかでも役に立つ実感を持つことが、状況に対応する自信を持つことができず。実際、宮城県内のある避難所では、指導員さんのリードで子どもたちが避難所内のルールを貼りだし、清掃を始めたことで、混乱していただけたことが秩序を取り戻しました。

これは、普段の学童保育の生活に、日課やルール、役割があり、おやつ配りたり、清掃をしたり、話しあう場があったからできたことではないでしょうか。いかに普段の生活が大切であるか……。指導員との信頼関係が築けていなければ

は、子どもは極限状態のなかで自分の気持ちや指導員に吐露することすらできなかつたのではないかと思います。

子どもの命と心を守る学童保育の役割

私たちの出会った指導員さんの多くは、震災を乗り越えるなかで仕事の大切さを自覚し、行政担当者もまた、学童保育への理解を深めました。震災という未曾有の災禍を通して、学童保育は子どもへの命と心を守る仕事であること、そして学童保育が大切にできた生活づくりにはどんな意味があったのか、私たちが見失ってはならないものは何か、一つの啓示を与えられたように、私は感じています。防災・減災対策のみならず、これからの学童保育のあり方を考える際に、被災した地域での取り組みの経験がいかされることは被災した私たちの希望であり、そのこと

進みます。話を聞くことで、専門家でなくても心を落ち着ける助けができます。私たちが指導員さんとの懇談を大切にしている理由はここにあります。話すことで落ち着きを取り戻した指導員さんは、子どもや保護者の声を受け止める力を回復します。ただし、沈黙も受け入れることを忘れないようにする必要があります。周りのおとながおもてなしができればうまく対応していくことができます。そのためにおとなが子どもにすべきこと―時間をかけて相手をする。安全であることを何度も伝える災禍はあなたのためにはないと話す。動揺させるようなことは見聞させないなど―は、震災当時、多くの指導員さんがとった行動でした。また、落ち着いておだやかに話しかける。子どもにわかる言葉で説明する。悲しむことを認め、強さを求めない。価値判断せ

私たちはWJH O版PFA (Psychological Well-being)により、被災した子どもの心のケアが必要とされることは、学童保育が「生活の場」として大切にできたことと共通するものであることを学びました。『WJH O版心理的応急処置 (サイコソカルアプリーストリート:PFA)』は、WJH O―現場の支援者ガイド』は、被災現場で二〇一一年夏に発表した被災現場での心の支援活動をする人のため手引きの日本語版です。縮刷版『被災者の心を支えるために―地域で支援活動をする人の心得―』(テラ宮城・公益財団法人・ジャパンのHPからダウンロードすることができ、縮刷版は無償提供させていただきます。

■表 宮城県学童保育緊急支援プロジェクト
2012年度～2013年度上半期の活動

<p>1. 研修支援</p>	<p>①市町単位・圏域の研修会実施を支援(企画・運営・資金等の援助) <small>*印はNGOとの連携による</small> (ア)指導員研修会：*気仙沼市・*石巻市・*東松島市・利府町・多賀城市・名取市・亶理町・福島県新地町 (イ)圏域研修会：白石市/大河原町/蔵王町の放課後児童クラブ指導員研修ならびに館長研修 多賀城市主催学童保育指導員研修会(対象：多賀城市・利府町・松島町・七ヶ浜町・塩釜市) (ウ)学童クラブを訪問しての実地研修：気仙沼市・*石巻市・*東松島市・利府町・多賀城市 ②全国連協の研修会参加支援：宮城県学童保育講座・全国学童保育研究会・全国指導員学校東北会場 参加費助成(沿岸市町)・旅費助成(内陸市町)・送迎用/バス(気仙沼市・山元町・福島県北2市1町) ③他県連協等主催の研修会への参加支援：岩手県新指導員学校・合宿研究会 横浜学童保育研究会他</p>
<p>2. 心のケア活動</p>	<p>①指導員との懇談・カウンセリングの実施：福島県新地町・石巻市・七ヶ浜町他 ②心のケアセミナー実施：名取市(NPO子育て応援団ひよこご連携)・福島県新地町(対象：山元町 /相馬市/南相馬市)</p>
<p>3. 被災および復興状況の調査・情報交換等</p>	<p>①自治体担当課との懇談：宮城県子育て支援課・気仙沼市・南三陸町・女川町・石巻市・東松島市・塩 釜市・七ヶ浜町・利府町・多賀城市・仙台市・名取市・岩沼市・亶理町・山元町・白石市・角田市・丸森町 ②学童クラブ訪問：気仙沼市・南三陸町・女川町・石巻市・東松島市・塩釜市・七ヶ浜町・名取市・亶理町・角田市 ③宮城県主催の会議への参加(宮城県子育て支援会議他)</p>
<p>4. 全国各地の学童保育関係者との支援に関する双方向の連携協力</p>	<p>①東京都連協・三多摩連協・東京の学童保育を充実させる連絡会：宮城県内被災地視察ツアー・学習交流会の企画実施 ②埼玉県連協：全国研究会参加者への資金提供・県連協保育指針ならびに研修カリキュラム等の情報提供 ③山形県連協・天童市連協：沿岸市町の研修会へ講師派遣・宮城県から山形県内の学童クラブへの視察受け入れ ④岩手県連協：岩手県連協主催研究会等への県内被災地からの参加受け入れ ⑤横浜連協：横浜学童保育研究会参加者の参加費援助と支援金提供 ⑥栃木県連協：日光市・那須塩原市の学童クラブへの視察受け入れ・プロジェクトから講師紹介 ⑦長崎県連協：長崎県連協の被災地域の物品販売による募金活動を通して被災地世話人と交流 ⑧東京都練馬区：練馬区児童館・学童クラブ研修会にて「震災時の子どもへの対応と心のケア」をテーマに講演 ⑨その他の支援金提供者：横須賀市学童保育指導員会/共同学童保育所しらかば台(学童クラブ(丸森市)/上田 市学童保育所)バツタの家/NPO法人草加元気づき子(八幡児童クラブ)/鶴岡県学童研究会/その他個人</p>
<p>5. その他の団体との連携・支援のコーディネート</p>	<p>①セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン……防災非常持出し用品・救急キット、防災頭巾を、15市町86学 童クラブにコーディネート。また、セーブ・ザ・チルドレンによる石巻市・東松島市の学童保育への研 修支援に協力。 ②フロンティア・ジャパン……WHO版サヤコプロジェクト日本語版「被災者の心を支える ために——地域で支援活動をする人の心得——」を研修資料として配布。 ③日本ユニセフ協会が2013年度より2か年計画で支援する気仙沼市・気仙沼市連協主催の研修会 の企画運営。</p>
<p>6. 県内ネットワークの形成に関わる活動</p>	<p>①日本NPOセンターの仲介で、明治製菓HD提供のお菓子類を、8市町42学童クラブにコーディネート。 ②東日本大震災子ども支援ネットワーク主催「第7回東日本大震災子ども支援意見交換会」で報告。 ③宮城学院女子大学から研修講師の派遣・全国指導員学校東北会場へ会場提供。大学院の研究に協力。 ④プロジェクトニュースの定期発行 ⑤世話人の募集と交流会の実施 ⑥「日本の学童はいく」誌 の紹介・取り次ぎ</p>